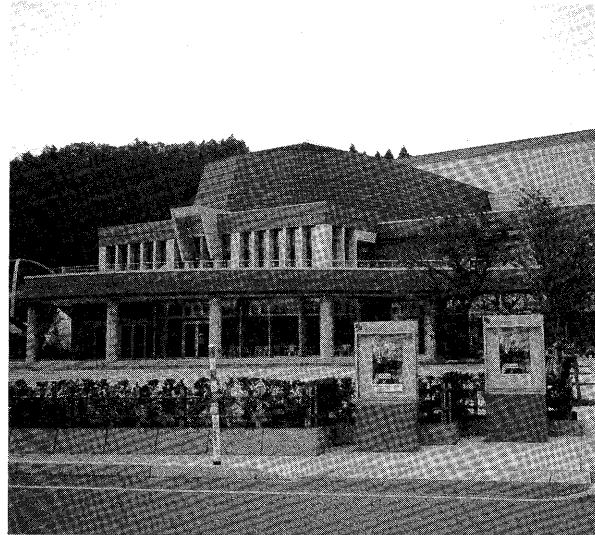


## Ⅱ. 中島町文化センター・能登演劇堂

能登中島町は、仲代達矢氏の「無名塾」との密接な関係がきっかけとなって、能登演劇堂を設立。舞台芸術アカデミーという舞台技術講習受講者が、裏方のボランティアを務めているが、それ以上に自主事業の企画からチケット販売、運営までを手がける「能登演劇堂振興協会」という市民組織の存在が特徴的。ホールの運営そのものに深く踏み込んだ市民組織としてのボランティアの可能性を示唆している。

### 📄 施設・運営の概要

運営母体	中島町・能登演劇堂振興協会
所在地	石川県鹿島郡中島町字中島甲部 130
TEL	0767-66-2323
FAX	0760-66-2326
開館年月	1995年5月
複合形態	複合館（図書館、公民館と併設）
施設特性	演劇劇場
座席数	651
自主事業予算	年間 3,000～5,000 万円
自主事業数	年間 11 本 21 公演（平成八年度）
立地都市人口	8,541 人
組織体制	総務系:2、企画系:4、技術系:2／計 8 （全て自治体職員）



### 😊 ボランティア制度の概要

名 称	<ul style="list-style-type: none"> <li>①：舞台芸術アカデミー（舞台の裏方業務に関する講座名、ボランティアとしての名称は特になし）</li> <li>②：能登演劇堂振興協会（自主事業の実施・運営主体）</li> </ul>
導入時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開館当初から（講座は開館前から実施）</li> </ul>
登録人数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①（アカデミー受講者）：15名（半数は町の職員）。</li> <li>・②：協会委員約30名、役員12名。</li> </ul>
導入の経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①：施設オープン前から鹿島町と共同で「舞台芸術アカデミー」を開講。町民参加による劇場運営のため受講生のボランティアで裏方業務に対応。</li> <li>・②：能登演劇堂の活用を促進し、企画面やチケット販売面で民間の知恵や力を借りるために設立。</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①：照明・舞台・音響（現在3期目のアカデミーの受講と自主事業での研修・補助が主）</li> <li>・②：自主事業の演目の検討、広報・宣伝、チケット販売、友の会会員勧誘、協賛金集め等</li> </ul>
募集方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①：公募。</li> <li>・②：委員は町内の各種団体の代表者。</li> </ul>
研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①：舞台芸術アカデミーの受講。</li> </ul>
実費支給	<ul style="list-style-type: none"> <li>・①：なし。*もぎり会場整理は別に有償ボランティア（女性10名、時給1,000円）を導入</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年間で中島町で稽古を続けてきた「無名塾」の活動の延長線上で劇場が設立された（仲代達矢氏が監修）。</li> <li>・能登演劇振興協会が能登演劇堂友の会を設立し、演劇愛好家の拡充と入場者の安定を図るとともに、演劇を核としたまちづくりを推進している。</li> </ul>

## 📖 インタビュー記録 📖

\*インタビューでは、劇場側の担当者と振興協会の会長にお話しをうかがった（舞台芸術アカデミーのボランティアメンバーへのインタビューは行っていない）。

### 1. 無名塾と能登演劇堂（振興協会会長の話を中心に）

#### (1) 無名塾との関わり

##### ① きっかけ

- 無名塾の演出家の兄と知り合いだったこともあって、昭和56,7年頃から、自分の経営する町内の会社で塾生をアルバイトとして受け入れていた。
- 昭和59年12月に商工会の青年部の主催で「まちづくりシンポジウム」という催し物が開催されたが、話し合うことも大切だが行動を起こすことの方が大切だということを実感し、それがきっかけで自分が中島町のまちづくりに対して何ができるか考えるようになった。
- そんな折、塾生をアルバイトとして受け入れていたという経緯もあって、無名塾の公演を東京のパルコ劇場に見に来ないかと誘われ、芝居を見終わった後で制作スタッフに「中島町で合宿をしませんか」と持ちかけてみた。
- 当時、無名塾は箱根に合宿所を持っていたが、塾結成10周年に当たる年で、何か新しいことを始めたいと、前向きな感触を得ることができた。
- 昭和58年に仲代さんが能登を訪れたことがあり、その際にいい印象を持っていたことも幸いした。風土・気候がいいこと、文化的な香りがすること、住民の顔つきや表情が豊かなことなど、ここの土地や人に興味を持たれたようだ。
- 昭和60年の1月になって、合宿の話を前向きに進めるべく、行政への働きかけを行った。当時は、仲代達矢さんの名前は知っていても無名塾のことは知らない人が多く（議員の中には、無名塾を学習塾と思った人もいるぐらい）、反応は賛成・反対が半々ぐらいだった。
- 中島町以外の周辺の町にも話を持ちかけたところ、2～3の町も熱心で、是非自分の町で取り組みたいというような反応だった。

##### ② 夏合宿

- その後、3月末までの間に、中島町内の意見調整を行い、7月に無名塾の合宿を行うことになった。
- 30人弱の塾生が民泊し、町の武道館を会場に夏合宿を行った。
- 当初合宿は非公開で、見るなら公演を見て欲しいというのが無名塾側の要望だった。商店振興会などからは、町民との触れ合いの機会を作って欲しいという要望が強く、中日に公開練習の日を1日だけ設けてもらったところ、300人以上の町民が集まった。
- 2年目の合宿が終わる頃には、塾生も町に打ちとけ、私たち町民のことを信頼してくれるようになり、3年目からは全ての合宿が公開となった。
- なお、無名塾の塾生は4回生まで（4年で卒業）。

### ③ 現在の関係

- 仲代氏は現在名誉町民で、能登演劇堂の名誉館長でもある。
- 現在は、能登演劇堂の催し物の内容を相談したり、仲代さんにロゴを書いてもらったり、無名焼きという焼き物を作ってもらったりする間柄になっている。将来的には、能登演劇堂グッズのようなものも開発したい。
- 去年から、無名塾の地方公演は、ここから他の地方へ出るということで、能登演劇堂からスタートするようになった。能登演劇堂は、舞台後壁の大扉が開いて屋外の自然空間と一体的な演出が可能な構造となっており、ここではその特性を活かした「中島町バージョン」が上演されている。
- 以前は、最後の1ヶ月間は東京で稽古をして作品を仕上げている、中島町の合宿の内容も立ち稽古が始まった段階のものだったが、去年からは仕上げ段階のものになった。
- 合宿の場所は能登演劇堂で、舞台装置をセットし、地方公演を回るための解体手順のチェックなどもここで行っている。舞台の仕込みは夜中までかかったり、舞台のセットが直前に変わって大工や電気工事の技術者を至急手配しなければならないようなこともあるが、演劇堂のスタッフは柔軟に対応している。
- これまで公演をやらない年も何回かあったが、その年も中島町の合宿だけは行っていた。そういう時には、中島町の伝統太鼓を塾生に教え、「無名塾能登中島太鼓」と名付けた太鼓や法被を寄付した。
- 無名塾と中島町の関係は、徐々に成熟して、互いに支え合うような関係になりつつある。来年は1ヶ月のロングラン公演を行う予定。

### (2) 能登演劇堂の建設の経緯

- 当初、無名塾が合宿を始めた頃は非公開で、町民の中に完成された公演を見たいという声が出てきたため、30人程度のバスツアーを企画し、東京まで公演を見に行っていた。
- 懇親会も兼ねたもので、実際の動機は芝居が見たいというのが半分、東京に行きたいというのが半分だったと思う。
- そのうち、中島町出身の東京在住者が、せっかくだからということで、一緒に芝居を見るようになり、東京では無名塾の評価が高いことがわかって、それが町にも伝わるようになった。
- そのうち、無名塾の中島町での活動が定着するようになって、ある新聞社の文芸部が平成3年に催した座談会の中で、仲代さんが「能登に無名塾の拠点があるといいなあ」というような発言をされ、それを石川県の関係者も見ていた。
- そうしたことから、能登演劇堂の建設構想が持ち上がり、自治省の「若者定住緊急プロジェクト」に認定され、建設予算の目処が立って実現した。結局、無名塾の10年間の活動が認められ、自治省のプロジェクトに認定されたのだと思う。

## 2. 能登演劇堂振興協会と演劇堂の運営

### (1) 能登演劇堂振興協会

#### ① 設立の趣旨

- 能登演劇堂振興協会は町内の約30の各種団体代表者が集まった任意団体で、能登演劇堂の活用を促進し、地域の芸術文化の高揚に寄与することを目的に設立されている。
- 実際の活動内容としては、自主事業の演目の検討、広報・宣伝、チケットの販売、友の会の会員勧誘、地元企業等からの協賛金集めなどを行っている。企画やチケット販売面で民間の知恵や力を借りるのがその趣旨。
- 演劇堂の管理・運営は町の直営で、自主事業は協会が中心になって運営している。

#### ② 協会の運営と業務の内容

- 総会は年2回開催しており、1回が自主事業の演目決定のため、もう1回は決算報告のため。
- この他に会長、副会長、理事数名からなる役員会も設けられており、こちらはもっと頻繁に会合を開いて、演劇堂の運営をさまざまな形でサポートしている。役員メンバーは自由業の方が中心で、日中に会合を開くことも多い。
- 事務局は町の文化振興課のスタッフが担当。
- この協会の委員や役員は、無報酬で、そういう意味では能登演劇堂の運営を支える一番のボランティアといえる。
- 協会の運営財源としては、自主事業のチケット販売による手数料収入と協賛金収入で、年間の総予算は500万円程度。その内の約半分ぐらいが、自主事業の広告や宣伝費に使われている。
- 催し物の宣伝や広告、協賛金の募集といった業務を、町という行政体が直

#### ● 能登演劇堂振興協会規約（抜粋）

(名称)

第一条 この協会は、能登演劇堂振興協会（以下「協会」という。）という。

(事務所)

第二条 協会の事務所は、石川県鹿島郡中島町甲部 130 番地の中島町文化センター内に置く。

(目的)

第三条 協会は、能登演劇堂（以下「演劇堂」という。）の活用を促進し、地域の芸術文化の高揚に寄与することを目的とする。

(事業および活動)

第四条 協会は、前条の目的を達成するため次の各号に掲げる事業及び活動を行う。

- (1) 自主事業の企画や運営にあたり、その振興を図ること。
- (2) 地域芸術活動の支援に関すること。
- (3) その他目的を達成するために必要な事業及び活動。

—以下省略—

接行うことは難しい面があるため、協会組織を介して実施している。チラシの印刷も協会が実施しており、新聞やテレビ、屋外広告なども必要に応じて使うことがある。

- 協賛金については、法人3万円、個人1万円ということで協力をお願いし、今年度は約90の会社や個人から約250万円が集まった。半分が町内の方で、企業が支出する場合は広告宣伝費として必要経費扱いになっている。

## (2) 能登演劇堂友の会

- 友の会は、基本的に能登演劇堂振興協会の下にある組織で、いい芝居をひとりでも多くの人に見てもらおうのが目的。
- 毎月1,500円（年間1万8千円）の会費を納めると、年に4回の定期公演を見られるしくみ。現在の会員数は1,814名。劇場の座席数は651席なので、3公演分の会員が加入している計算になる。
- 企画の内容も、隣町や金沢市ではやらないもので、直接中央の劇団を招くことを基本にしている。
- 中島町の周辺人口は20～30万人で、金沢からも遠いし、日中はほとんどの人が働いていて、チケットをどうやって売るのがかということが大きな課題になっていた。

### ● 能登演劇堂友の会運営要項（抜粋）

能登演劇堂友の会会員を次により募集する。

#### 1. 目的

「能登演劇堂」において、すぐれた現代演劇を鑑賞しようとする者の会（「能登演劇堂友の会」という。）を組織し、演劇愛好家の拡充と入場者の安定確保を図ることを目的とする。

—途中省略—

#### 3. 会員の特典

会員は次の特典をうけることができる。

- (1) 会員名簿へ登録し会員証を発行する。
- (2) 最新の演劇情報誌等の郵送
- (3) 年間4回の現代演劇を座席指定で鑑賞

(4) 座席指定の公演には、会員に限り一般前売り前に優先予約ができる。

#### 4. 会員の資格

- (1) 毎月の会費を納入している者。
- (2) 会員期間は、毎年4月1日から翌年3月31日までとし、従前の会員は退会の申出がない限り継続するものとする。
- (3) 年度途中の入会は、その月以降の会費に1ヶ月分を加算する。（ただし、4月入会の場合は加算しない）
- (4) 会費の納入が3ヶ月以上滞った場合、会員資格を失う。

—途中省略—

#### 6. 会費

- (1) 会費は月額1,500円とする。
- (2) 毎年4月分から納入するものとする。
- (3) 納入は、毎月納、前納（一括、分納）のいずれでもよい。

—以下省略—

## ■ 中島町文化センター／能登演劇堂

- ・そこで、会費をもらって現代演劇を中心に鑑賞してもらう友の会を設置することとした。いわゆる鑑賞団体に近い形だが、これまでの鑑賞団体の制約（会員は通信効率の観点から複数で加入しなければならないとか、会の運営に対してボランティアをしなければならないなど）は排除し、会員に公演の案内を送って、鑑賞することだけに特化したしくみとした。
- ・募集したところ1ヶ月で650人が、2ヶ月で1,300人の会員が集まった。劇場のキャパは650席なので、昨年5月の柿落としては2回公演を行うことができた。その後、昨年の12月から3ステージ分を目標に再度募集を始めたところ、約1割の人が退会し、7月末現在で新たに650人が入会している。
- ・演目によって入会状況が異なるのが実状。平均年齢は49才で、それに見合った内容の公演を考えていく必要がある。正直なところ、現代演劇は1～2割の人が賛同してくれる程度で、多種多様な要求にどう対応していくのが今後の課題。
- ・会員を継続するためには、最後にわかりやすいものを持ってくるなど、4回の演目の順序も重要だと思う。
- ・会員の募集は、2市10町（人口約16万人）を対象にしたが、現在の会員の約8割はそのエリア（車で30分前後の圏内）の人。中島町内の会員は750名で全体の45%。町の人口は現在約8,000人だが、有権者（成人）の数は6,500人であることを考えると1割以上の組織率ということになる。
- ・会員数は、3公演分の2,000人程度が限界だと考えている。2,000を越えると郵送などの事務作業が膨大になるし、演目のメニューを今以上に増やすことも必要になると思う。

### (3) 能登演劇堂振興協会と無名塾能登後援会

- ・能登演劇堂振興協会とは別に、無名塾能登後援会という組織があって、10年間活動を展開している。活動の一環として演劇を見に行ったり、Tシャツやテレフォンカードを作って売ったりしている。
- ・能登演劇堂振興協会の構成メンバーは各会の代表者で、必ずしも30名全員がこの演劇堂の活動に興味があるとは限らない。官の要請でできたような側面もあり、会員の所属団体にチケットを売れるという読みもあった。
- ・能登演劇堂振興協会とメンバーは若干重複しているが、こちらは、各界の実務者（若い人）が集まって実質的な活動ができるようなしくみになっている。

## 3. 舞台芸術アカデミー（裏方ボランティア）とオモテ方ボランティア

### (1) 導入の経緯（舞台芸術アカデミー）

- ・舞台芸術アカデミーという照明・音響・舞台に関する研修事業を、施設がオープンする前の平成6年から隣町の鹿島町と共同で実施していた。会場は中島町役場の会議室や「ラピア鹿島（鹿島町の多目的ホール）」。
- ・その背景には、裏方業務を外部委託するとお金がかかるということで、何とかこのアカデミー受講生によって、ボランティアで対応できないだろう

か、という目論見があった。

- これは、七尾・鹿島広域圏のソフト面の補助事業として実施しているもので、当初40名ぐらいが集まったが、最初の何回かが実技を伴わない講義だけの研修であったこともあり、少し人数が減って30名前後になった。
- その後、能登演劇堂ができて、平成8年からは中島町と鹿島町がそれぞれの施設で開催するようになった。能登演劇堂が演劇専用劇場であるのに対し、ラピア鹿島は多目的ホールであるため、双方の劇場に必要とされる技術が異なるということもその理由のひとつ。

## (2) ボランティアの概要（舞台芸術アカデミー）

- 中島町で現在そのアカデミーを受講している人は約15名で、基本的には全員に裏方を手伝ってもらっている。15名のうち半数は町の職員、一般の人は30代の人を中心に、女性も3名含まれている。
- 弁当代を劇場が負担することはあるが、基本的には無償ボランティア。ほとんどの人が町内在住なので交通費も支給していない。
- アカデミーの受講料は無料。

## (3) ボランティアの業務内容（舞台芸術アカデミー）

- プロの公演の場合、照明・音響・舞台等のスタッフは同行してくるため、実際の業務としては、専門家の技術操作を見て学んでいる状態。「無名塾」の公演の際も、横について見学しながら学習できるようにしている。
- ただ、今年の公演のうち、7月の「方の会」公演「しんしゃく源氏物語」では、ボランティアが舞台制作・音響・照明のサブスタッフを務め、また、9月の永六輔のバラエティショーでは、舞台監督だけが派遣された専門家で照明・音響のオペレーションはボランティアが担当した。
- 自主事業の公演の際には、都合の悪い人を除いて必ず劇場に来てもらうようにしている。年間25日ぐらいで、1日の平均業務時間は、搬出や後片づけを含めて18:00頃から22:30ぐらいまで。ボランティアのうち町の職員については、残業がない限り基本的に手伝ってもらっている。
- 舞台芸術アカデミーは、年間約10回の研修会で、講師は能登演劇堂の舞台設備を納入した専門家をお願いしている。舞台の設備のことを熟知しており、また、講師謝礼等についても柔軟に対応してくれるため。
- 舞台芸術アカデミーの受講者は、基本的に初年度からの継続者で、講義内容等も年々実践に即したものになっている。劇場の運営は町の直営で、町の職員は異動することがあっても、ボランティアは継続してやってもらえるため、ボランティアの中にノウハウが蓄積されていけばいいと思う。
- アカデミー受講の動機としては、舞台音響に興味があった、昔バンドで音響を担当していたなど。金沢で舞台関係の仕事をしている人もいる。劇場職員の知り合いを經由して口コミで集まった人がほとんど。
- 劇場付きの技術スタッフは2名で、日中の事業は職員が対応している。ただ、日中の事業は講演会のようなものが中心で、舞台芸術の公演のように複雑なオペレーションは少ない。

## ■ 中島町文化センター／能登演劇堂

- ・昨年度の実績では、年間の劇場使用日数は約35日で、そのうちの半分が貸し館。
- ・搬出入は、職員が研修を兼ねて対応している。

### (4) オモテ方ボランティア（もぎり・会場整理）

- ・もぎり・会場整理については、有償ボランティア(時給1,000円)ということで、開館時から町内の女性10名にお願いしている。
- ・少ない職員ではオモテ方に対応できないため、スタッフをどう集めるかが、当初から課題になっていた。婦人会にお願いすることも検討したが、年輩の女性は夜間の対応が難しく、未婚の女性に声をかけてお願いした。
- ・通常の業務時間は3～4時間程度。

## 4. 今後の展望

### (1) ボランティアについて

- ・ボランティアの基本は、参加できる喜びだと思う。
- ・最近では、官がボランティアの導入を促進しようとしているが、それを官自体が阻害しているような面があるのではないかと。民間の場合、残業をしたり休日出勤しても報酬を払うことはできないが、官の場合は、残業代が支給される。
- ・ボランティアの問題点としては、責任の所在がどこにあるのかが不明確になる点。会合に出席したときだけボランティアをしているというようなことになりかねない。能登演劇振興協会の場合も、事務局は演劇堂を運営する町の文化振興課が担当している。
- ・ただ、演劇堂を円滑に運営するため、官がやるべきこと、できることと、民がやるべきこと、できることははっきりと区別して使い分けている。

### (2) 能登演劇堂と地域づくり

- ・商業演劇が来て公演するだけでは、ただの消費の場になってしまう。この能登演劇堂とこれまでに蓄積してきた活動を使って、町民が何をやるかという発想が重要。

#### ① 戯曲募集と演劇人材の育成

- ・そのひとつのきっかけとして、昨年12月末に全国の高校生を対象にした戯曲の募集を行った。文部省の関連組織である全国高等学校文化部連盟（高文連）を経由して各県に募集要項を配布したところ、すでに何件か問い合わせがある。
- ・中島高校には以前演劇コースがあった。現在の学校教育は文化よりスポーツが中心になっているが、特色ある高校を作るということで、この演劇コースを演劇科として再度設置したいと考えている。
- ・高等学校で正式な演劇科を置いているところは現在国内で僅かに3ヶ所。今後、若者人口の減少とともに、高等学校もこの近辺では10校中3校が閉鎖されるような時代になると思う。



#### ■ 中島町文化センター／能登演劇堂

- 演劇科を卒業したからといって、必ずしも演劇人になる必要はないし、多様な価値観を持った若者を育てるためにも、演劇科の設置は有効だと思う。
- 将来的には、町民劇団のようなものを作ってはどうだろうかということも検討中。

#### ② 演劇を核にしたまちづくり

- これらのことをとおして、演劇を介したまちづくりのようなことができばと思う。演劇によって人々が町を訪れ、情報が行き交い、ひいては経済的な波及効果も生まれる、といったことも考えたい。
- 言い換えれば、文化もカネもやってくるということで、アメリカのオレゴン州では、シェイクスピア劇場によって、交流人口も定住人口も増加し、まちづくりに成功した例があると聞いたことがある。
- 能登に新しい飛行場が建設される計画があるが、能登の地域ひとつひとつが特色を持ったパビリオンとして、能登地域全体がひとつのテーマパークのようになればいいと思う。その時、中島町はどこにもない演劇のパビリオンとして特色を打ち出していきたい。

—以上—

● 参考：平成8年度の自主事業のチラシ（賛助会員のリストが右端に掲載されている）

## 平成8年度

### ◆定期公演(友の会) ★一般用として当り券多少あり

**「叔母との旅」** 演劇集団「円」公演  
出演 松本城 有川博 藤田進之 志見一 堀ほか  
7日のみ、午後1時と午後6時

**「蓮如」** 「前進座」公演 出演 塚本幸三ほか  
★7日午後1時公演は一歳対象 入場料6,000円

**「リチャード三世」** 「無名塾」公演 出演 中代達夫ほか  
★各日とも一般席あり ★入場料15,500円

**「守銭奴」** 「俳優座劇場」公演  
出演 坂本英博、野村礼子、高橋純恵ほか

### ◆一般公演

**小原佳 歌謡の会** ★入場料4,000円

**「しんしゃく源氏物語」** 共0余、少男、出演 市川夏江 狭間鉄ほか  
★入場料15,000円

フルーツファクトリー 読者口直葉によるウイーンのパロディコンサート  
★入場券500円 出演 大田茂、ハラルド・クルンベック、  
ベニターニ・ザガイシエック、ニコラウス・シュトラカ、  
ヘルマンルト・ヒペラウアー ★入場料2,000円

**8月11日(日) 開演 午後2時**  
**「ショート新喜劇と漫才」** 「吉本興業」公演  
★入場料5,000円

**9月22日(日) 開演 午後6時30分**  
バラエティショー  
**「六輔、その世界」** 出演 永六輔、田辺靖雄、九重佑三子ほか  
★入場料4,000円

**11月15日(金) 開演 午後7時**  
**「松竹大歌舞伎」** 出演 松竹園、松竹園ほか  
★入場料16,500円

**線は生きている** 仲間 公演 石川真知子、須見共雄  
★入場料3,500円

**予告 平成9年10月9日(木)～11月10日(月) 能登中島演劇祭** ※30ステージを予定しています。  
**第1回 ロングラン公演 無名塾「いのち棒にふるう物語」** 原作 山本高五郎  
主演 年代達夫、渡辺祥

※公演日程は変更の可能性があります。

お問い合わせ、お求めは  
**能登演劇堂振興協会**  
〒925-22 石川県能登郡中島町字中島甲部132  
能登演劇堂  
TEL:0767-66-2323 FAX:0767-66-2326

### 平成8年賛助会員

- 福井商店
- 能登分子工業(株)
- 藤田通造(株)
- 北国太陽テント
- 福井建設
- 山崎建設
- 三浦水産(有)
- 山口水産
- 長尾一
- 井田産業(株)
- (有)中島スラステック
- (有)養井自動車商会
- (有)村田電気商会
- 今村石油(株)
- 能州運輸(株)
- 瀬建設(株)
- 3番ラーメン
- 半田商店
- 家具センター福井
- 小林工務店
- 寿の家具
- 奥能信用金庫
- 中島建設運送(株)
- 水ひかり
- 能登信用金庫
- 昭和建設(株)
- 山下建設工業(株)
- 中島商店(株)
- 関の鳥パークハウス
- (有)だけ造園
- 木村水産
- えじり食品
- (有)森村自動車商会
- ホーセン(有)
- (有)中島木材工業
- 岩城農機店
- (有)サンワ工業
- (株)丸田組
- (株)谷野商事
- (株)浜園マーケット
- リカーショッスカンダ
- 勝豊鮮魚店
- 大野木印刷
- (有)坂口総合建材
- (有)ながたに
- エフ・スファッションわかこ
- 谷口製材(株)
- 北國銀行
- フナケン
- 宮本水産
- (有)ファミリー電機商会
- (株)山田建設
- (株)能登運輸
- (有)中島電気工事
- (株)農産組
- 日本海建設(株)
- (株)東出組
- (株)福岡建設
- (株)表組
- (株)北都組
- 南建設(株)
- 石田工業(株)
- 東急建設(株)金沢(株)
- (株)青木建設金沢(株)
- 日本国土開発(株)金沢(株)
- (株)栗田測量
- 丸屋建設(株)
- (株)宇野建設(株)
- (株)アルファシステム(株)
- 沢田工業(株)
- (株)福木組
- (株)加納建設(株)七尾(株)
- (株)和倉ダスキン
- (株)洋建設(株)北陸支店
- 東海建設(株)七尾支店
- (株)三井物産(株)
- (株)大塚組
- (株)地域みらい
- 飛鳥建設(株)北陸支店
- 北陸スタッフ
- 佐藤工業(株)北陸支店
- (株)宮地組
- (株)ホクコク地水
- 北川ヒューテック(株)
- 吉田道路(株)
- (株)国土開発センター
- 北陸電気工事(株)七尾支店
- 能登開道(株)
- (有)アト商会
- (有)寛地園
- 関下建設(株)
- 関和建設(株)
- 第一興産興業(株)

**能登演劇堂振興協会**  
中島町商工会  
平成8年4月現在(順不同)

- (有)ながたに  
TEL (0767) 66-1226
- アステイ池田書店  
TEL (0767) 52-7300
- ファミィ(輪島)  
TEL (0768) 22-8181
- うねだや(輪島)  
TEL (0768) 22-4661
- レディースファッションわかこ  
TEL (0767) 66-0558
- アルプラザ函島  
TEL (0767) 76-2211
- サンボア(輪島)  
TEL (0768) 22-7711
- 北市(有)(志賀町)  
TEL (0767) 32-0138
- パトリアサービスカウンター  
TEL (0767) 54-0777
- 菊澤書店本府中店  
TEL (0767) 52-0350
- 菊澤書店穴水店  
TEL (0768) 52-2410
- (有)サカイ事務機(高津町)  
TEL (0767) 42-2255